



敬老だより

第4号 令和7年9月

ごあいさつ



敬老の日にあたり、心からお祝い申し上げます。また、長年にわたり、ご家庭や地域社会のために、さまざまな分野でご尽力されてこられた皆様に、深く敬意と感謝の意を表します。

皆様がこれまで培われた豊かな知識や経験は、次の世代への道しるべとなります。今後も皆様の声を大切にしながら、誰もが安心して年を重ね、生きがいを感じながら暮らせるまちづくりに取り組んでまいります。

結びに、皆様がいつまでもお元気で年輪を刻まれますことを心より祈念申し上げます。

鴻巣市長 並木 正年



敬老の日にあたり、お祝いを申し上げます。

長年にわたり地域の発展と平和で豊かな社会の礎を築いてこられたみなさまの多大なるご尽力に、心から敬意と感謝を申し上げますとともに、いつ

までもご壮健にてお過ごしくくださいますようお願い申し上げます。

議会としては、みなさまが築き上げてきたこのまちの魅力をしっかりと未来へ受け継ぎ、誰もが笑顔にあふれ、健康で安全・安心に暮らすことのできるまちとなるよう取り組んでまいります。

鴻巣市議会議員 橋本 稔

地域で活躍する皆さんをご紹介します！



みずさわ つとむ
水澤 勉 さん
(本町)

決して色褪せることのない 青春時代の思い出と共に

学生時代に情熱を注いだ漫画や雑誌など、壁一面の本棚には水澤さんの青春がぎっしり詰まっています。水沢つとむのペンネームで漫画を描き、仲間とともに同人誌を制作。コミックマーケットに出店したこともあるそうです。「これが私の青春時代、生きてきた証」と語るその瞳はまるで漫画のようなキラキラ目。34歳で家業を継ぎ、消防団や民生委員として地域の活動にも従事。近年は消防団長(令和2~5年度)を務めるほか自治会の会長としても地域を見守っています。

4000冊以上の漫画や雑誌がズラリ。昭和40年代の希少な作品も▶



ご主人との思い出がいっぱい詰まった 自宅の庭で

「バラと埴輪のおうち」としてご近所でも有名な堀江さん宅のお庭には、今も手入れの行き届いた綺麗なバラの花が咲いています。今からおよそ25年前、ご主人がバラを育て始めたのをきっかけに「鴻巣オープンガーデン花の環」に参加。歴史を感じる埴輪とバラのコラボは珍しく、多くの方が観賞に訪れたそうです。「興味があると頂点まで行く人」と語るとおり、もっとも多い時期には50種ものバラを育て、庭園で出会った人との交流を大切にしていたそうです。

「長持ちさせてあげたい」と愛を感じる庭でした



ほりえ みよ子 さん
堀江 みよ子 さん
(箕田)

ハーモニカの伴奏にあわせて みんなで歌う幸せのひとときを

病気をきっかけに62歳でハーモニカと出会い、以来20年以上にわたって演奏を続けている石川さん。高齢者サロンやオレンジカフェ、老人ホームなど多いときは30か所、年間140回も演奏を行っていたそうです。「自分のリハビリのため」と語るも、ボランティアというひと言では言い尽くせないほど尊い活動です。童謡や唱歌、歌謡曲などレパートリーは数知れず。歌うように吹く石川さんのハーモニカにみんな癒されています。

石川さんの活動を見守ってきたファンの方からご推薦いただきました



いしかわ ひろし
石川 弘 さん
(滝馬室)

好きなことを追求する好奇心こそ元気の秘訣

月に1度、高齢者サロンのボランティアとして活動する浅輪さん。「あくまで趣味なので・・・」と控えめに披露してくれたのは、作家と呼ぶにふさわしい見事な作品の数々。畑に種を蒔いて綿花を栽培し、竹製の紡車でみずから糸を紡ぎます。さらにその糸を使って生地を織り、ときには藍で染め、洋服に仕立てるまですべて一人で作業しているそうです。作品によって数か月から1年かかることも。好きなことを追求できるってカッコ良い！

「今日は疲れたなって思ったら翌日はデレンコします！」(浅輪さん)



あさわ
浅輪 マリ さん
(人形)

スタイルを変えないのが健康の秘訣。 「昨日の自分も明日の自分も同じが良い」

白石さんは“夏の鴻巣”とも称された鴻巣高校野球部の黄金期に活躍した選手のひとりです。県大会で優勝し、甲子園出場をかけた南関東大会でも準優勝に輝くなど、後世に語り継がれる名勝負を繰り広げました。米寿を迎えた今は週2回の卓球をはじめ、10年間毎朝続けているラジオ体操、サプリを取り入れたバランスの良い食事など、「スタイルをできるだけ変えないこと」を意識しつつ健康な毎日を過ごしています。



25年ぶりに着たお気に入りのオーダースーツ。体型も変わらないからシルエットも美しいまま▲



しらいし ふさし
白石 房司 さん
(本町)

「卒寿を迎えて」 戦争を体験したからこそ伝えたい

「私は昭和10年に三ヶ尻村(今の熊谷市)で生まれました。自宅のすぐ後ろに熊谷陸軍飛行学校があり、非常に恐ろしい思いをしました。熊谷空襲を体験した数少ない一人になりました。(中略)定年退職後は地域のためになろうと町内会、スポーツ愛好会の役員を積極的に務め、今でもグラウンド・ゴルフ、パークゴルフを楽しんでおります。適度に歩くため体力増進、認知症の予防にも良いと思います。私も皇寿に向かって頑張っております」



70代の頃の写真。
数々の大会で優勝
したゴルフ愛好家

卒寿を迎えられた島野さんより寄稿いただきました



しまの もりじ
島野 守司 さん
(鎌塚)



すずき よしなお
鈴木 義尚 さん
(本町)

「絵を考えている時が一番楽しい♪」 ここから始まる新たな作品づくり

「あと10年は自分のやりたい木工に打ち込みたい」7期14年務めた自治会長から退いた鈴木さん。テレビ番組にも出演したことがある街の有名人です。糸ノコと彫刻刀を巧みに使う“糸ノコ木工”という独自のスタイルで、木工教室や個展を開催しながらその魅力を伝えています。小3の時に作った観音様が作品づくりの原点で、「上手にできたね」と褒められて仏壇に飾ってもらったお母さまとの美しい思い出を語っていただきました。



作品のモチーフになっている動物がみんな鈴木さんと同じく笑顔なのがカワイイ▲

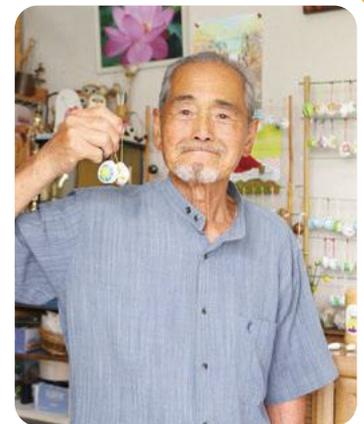
「生かされている」80代最後の年に思うこと

東京で生まれ戦争を経験した荻原さん。当時の苦労は今も忘れません。「子ども5人を食わせるだけでも親は大変だったと思う」「戦争のない世界になってもらいたい。戦争なんてこれからの子どもに経験



老いてなを 友と和ごめる 幸せよ
友と呑む 酒の旨さに ついほろり

させたくない」と思いを語ってくれました。今はご近所の仲間を集めて“お楽しみ会”をするのが楽しみで、お友だちやそのご家族の幸せを願いつつ、趣味で作っているクルミやどんぐりのストラップなどをプレゼントしているそうです。



おぎはら ふじお
荻原 富士雄 さん
(糠田)



まるおか けんじ
丸岡 建嗣 さん
きよこ
清子 さん
(箕田)

夫婦ふたりでかけぬけた60年！ 「この人がいるから私がいる」

90歳を過ぎてても元気でお互いを思いやる丸岡さんご夫婦は、知る人ぞ知る地域のそろばん教室の先生です。勉強を教えるだけでなく、手作りのケーキで子どもたちの誕生日を祝うなど、そこには全力で子どもたちと向き合う学び舎がありました。20代半ばで結婚し、独立開業したのは40代になってからのこと。「必死でした」と当時を振り返り、休日には早朝から山登りに行ったり、旅行に出かけたり。元気いっぱい理想のご夫婦です。

「人のやさしさに慰められて元気に生かされている毎日です」(清子さん) 「みなさんのおかげ」(建嗣さん)

敬老の日、おめでとうございます。9月15日はご家族、地域でご長寿をお祝いしましょう。